

清流のほとり

令和5年5月1日(月)発行

園長 津田 将美

園庭の風景

「園長先生、見て。この間、200回できたんだよ。」
フラフープをリズムカルに回しながら、笑顔で教えてくれた子がいました。それほど体を動かしているわけでもなく、余裕の表情で楽しそうに友だちともおしゃべりをしています。その間もフラフープはきれいに回り続けています。

「〇〇ちゃん、とっても、上手なんだよ。私も練習してるの。」
ともう一人の子。その子も、お友だちをお手本に、何度も何度も練習しています。回すコツをつかみかけているのか、やる度に回数が増えていきます。私はそれを感じしながらながめていました。

私は、フラフープが苦手です。小学校勤務の時も、子どもたちに教わりながら練習しましたが、どうしてもできるようになりませんでした。

「園長先生も、やってみる？」
どきどきしながらも、そう言われたらやってみるしかありません。久しぶりのフラフープ、大の苦手なフラフープ……。でも、声をかけ合いがんばる子どもたちを前に、自分が逃げ出すわけにはいきません。

「よし、いくぞ！エイッ！！！」
かけ声も勇ましく、フラフープを回しながら思いっきり腰を振りました。しかし無残にも、フラフープはカランと乾いた音を立てながら、地面に落ちました。思った通りの結果です。子どもたちが笑ってくれたのが、せめてもの救いでした。

「ここが大きいからなんじゃない？」
と私の腰を指さして、一人の子が言いました。
「園長先生、おしりがでっかいからねえ。ハッハ～！」
なんて笑い飛ばしてみましたが、よくよく考えると、自分は腰にひっかけて無理して回していることに気づきました。なるほど、上手な子はわずかな動きで、うまく遠心力を作り出しています。無駄な力を入れずに、スムーズに力をフラフープに伝える…。それがコツなんだろうと思いました。

これは、「人知れず練習しよう…」なんて考えは捨てて、子どもたちの前で、子どもたちにアドバイスを受けながら練習するしかない、と心に決めました。

園庭の風景は、子どもたちの笑顔と共にあたたかい声かけが見られる風景です。いたる所に関わり合いがあり、アドバイスや励まし、交流があります。教師はそのひとつひとつを丁寧に拾い上げ、見守り、助けすぎることなく、適切な支援ができるように毎日心がけています。私もその空間に入ることのできる心地よさを感じながら、とりあえずはフラフープが少しでもできるように、がんばっていきたいと思います。

